

「つながる・ひろがる」道守活動

20年前、第1回「みちづくし九州大会」を熊本市で開催しました。基調講演を私が行いました。当時「道守」など何も知らないとき、私は大分から熊本城「参勤交代歴史の道」を歩き青少年育成のグループリーダーとして活躍していました。400年の前から今も使われている「歴史の道」の重要性や道を通しての青少年育成の大切なことを話したことを覚えています。それから20年「参勤交代の旅」は2023年で44回目を迎えました。



大分から熊本城まで九州横断参勤交代徒歩の旅

道守くまもとは花壇の花植えや道路のゴミ拾いなど道路美化や河川草刈りなどボランティア活動を続けています。この間、熊本地震や人吉球磨地方の大水害など熊本は大被害を受けました。

7年前の熊本地震では益城町や阿蘇地方の震災地へ仲間と共に直ぐボランティア活動に行きました。益城町道守会員の井川寿範さんを訪ね益城町で被災された家屋のブルーシート張りをして雨から被災した家屋を守りました。半年間連日益城町に行き家屋の整理や泥出しなどしましたが道守さんもボランティア活動に参加してくれて、その後益城町と自然を愛する会ボランティア隊で防災協定を結ぶことにしました。

人吉・球磨地方の大水害では連日床下の泥出しなど3か月及ぶボランティア活動を連日しました。コロナの影響で県外の方たちのボランティア活動ができず道守ネットワークボランティアの活躍は大きなものであります。益城町赤井区の

ることでしょう。

道守を通じて人と人がつながることがこれからも大切な役割でもあると考えます。そんな思いを実践すべく3年前から大分県と熊本県をまたぐ県道11号通称やまなみハイウェイの美化活動とシンポジウムを道守メンバーが実施しています。



熊本地震でのボランティア活動



防災協定を結んだ自然を愛する会ボランティア隊

井川さんたちは地震の時のお礼にと人吉市や球磨村、相良村を訪ねチューリップの花植えをし、今でも継続して一緒に花を育てています。今年には、ネモフィラにチャレンジされています。春先には、ブルーの絨毯が誕生することでしょう。

道路関係者や沿線市町村、銀行や会社団体に加え環境省阿蘇事務所からも参加があり、確かな手ごたえを感じています。昨年のみちづくし阿蘇大会開催で阿蘇道の駅や沿線の道の駅、地域住民も



チューリップの里赤井区

加わりその輪が広がっています。阿蘇市の未知を考える女性の会や南小国町ボランティア行動隊など地域を支える方々とこれからも「つながる・ひろがる」活動の輪を広げていきたいと思えます。

(道守くまもと会議世話人 阿南誠志)



3回目を迎えたやまなみハイウェイの美化活動